

「これで我が子もお手伝い名人」～ニコニコお手伝い作戦～

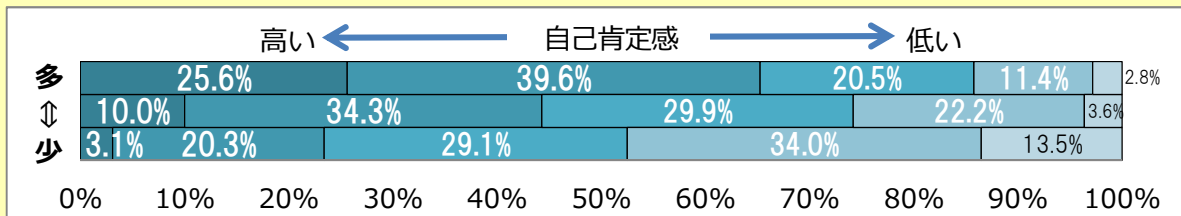
エピソード

- Aさん 何でもかんでも「やってみたい」さかり。でも、逆に時間も手間もかかって、かえって面倒・・・。「お願いだから、さわらないで。」というのが本音。
- Bさん お風呂そうじが決まったお手伝いだけど、なかなかとりかからないので、注意したらふてくされて…。結局、親が手を出してしまう。
- Cさん ちょっとしたお手伝いなのに、「なんで、僕にだけ言うの？」と不機嫌に。どうせやるなら、「はい」と素直な返事で引き受けてくれればいいのに。
- Dさん お茶碗洗いに、玄関そうじ etc. いつもになくお手伝いに熱心だな～と思っていたら、1回につき50円ほしいとの要求が!! どうすればいいの？
- Eさん 学校の調理実習でほめられたとかで、最近やたらと台所に立ちたがる我が子。本当は、そんなヒマがあるなら、もう少し勉強してほしい。

ワーク1 エピソードを読んで感じたことを書きましょう。



まめ知識 お手伝いで育まれるものは？



お手伝いと自己肯定感の関係 「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成24年度調査）報告書」（国立青少年教育振興機構 H26.3）

自己肯定感とは、自己を肯定する感覚。つまり「自分は生きている意味がある」「存在価値がある」「大切な存在だ」「必要とされている」と感じる心の感覚です。

お手伝いは「子育ての」チャンス!! 「上手・下手（評価）」よりも「喜び・感動・感謝」を伝えよう。

お手伝いは、子どもにとって初めての「人の役に立つ」という経験です。お手伝いをすることで自分の役割ができ、家族の一員であることを実感します。家族の役に立っているという経験は、子どもにとって大きな自信となり、「自己有用感」や「自己肯定感」が高まります。

人に喜ばれ、ほめられることで、もっと何かしたい、もっと役に立ちたい、と考えるようになり、人の気持ちを思いやることができるようになっていきます。同時に、期待に応えようとする責任感も芽生えてきます。

決まった仕事に対し、時には面倒に思うこともありますが、短時間で効率的に行おうとすることで、創意工夫する力や集中力・忍耐力なども育まれます。

また、お手伝いを継続していくと、仕事の大変さが分かるようになり、親や周囲の方々への感謝の気持ちも育っていきます。

① 自分自身の喜びや感謝の気持ちを伝える。

「うれしい」
「ありがとう」
「おかげで助かった」など



② 子どもの喜びに共感する。

「よかったね」「がんばったね」
「こんなこともできるの」など

ワーク2 エピソードの5人に対するアドバイスを考えてみましょう。

ワーク3 どんなお手伝いが考えられますか。させてみたいお手伝いの計画を立てましょう。



家庭の仕事は、だれの仕事？

小学校5年生から始まる家庭科では、「家庭には、自分や家族の生活を支える仕事があること」、「生活時間の有効な使い方を工夫し、家族の一員として自分にできる仕事を分担し、家族に協力すること」などを学びます。

家庭の仕事が、特定の誰かの仕事になっていないか、男女を問わず、大人も子どもも、家族の一員として自分にできることを分担しているか、家族で確かめてみましょう。



ふりかえり このプログラムをとおして、どんなことを考えましたか。